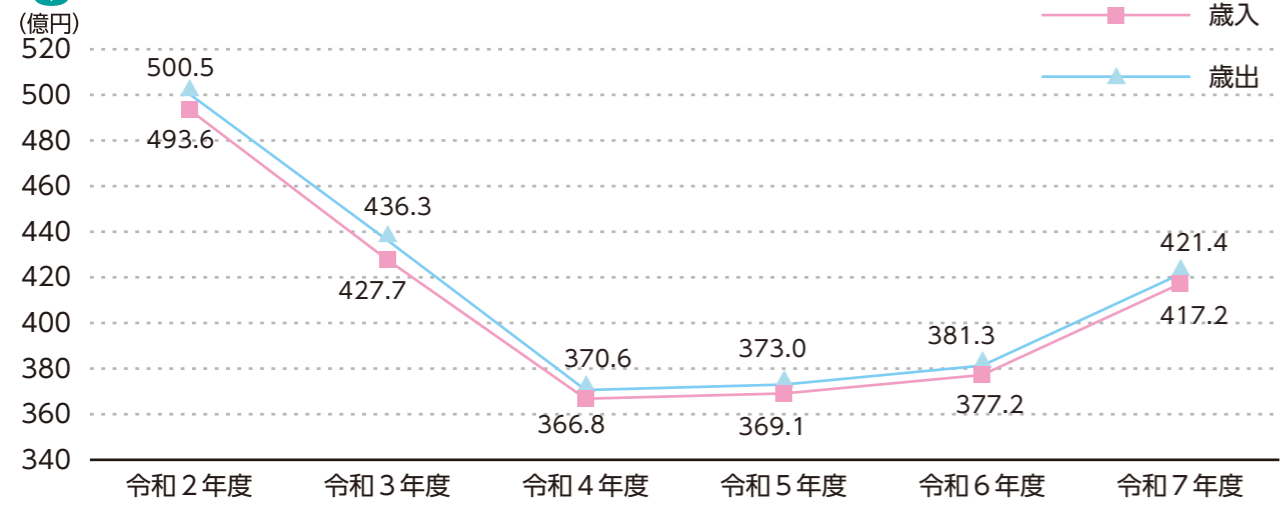




日田市の財政推計 普通会計

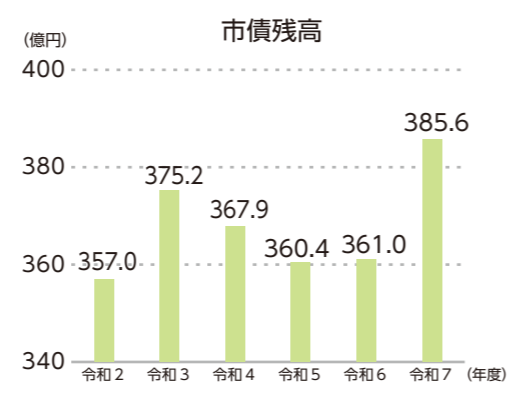
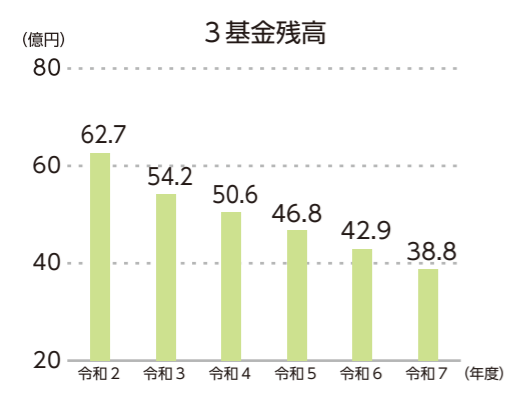
歳入・歳出の推移



3基金残高と市債残高(市の借金)の推移

令和7年度までの試算では、新型コロナウイルス感染症の影響によって市税が大幅に減少し、以前の水準に戻るには数年を要すると見込まれること、普通交付税についても市町村合併に伴う優遇措置の終了や人口減少に伴う影響などによる減少から、歳出の抑制を行っても財源不足が生じます。財源不足を補うため、3基金を取り崩すことになり、残高が減少します。また、市債残高については、災害復旧事業や施設の更新などの普通建設事業によって各年度で変動があり、償還額が借入額を上回る年度もありますが、推計期間を通じては令和7年度末の残高は令和2年度末残高見込みよりも増加する見込みです。

※3基金残高とは、財政調整基金・減債基金・退職手当基金の3つの基金を合算した額のことです。



経常収支比率

令和3年度 ①	令和7年度 ②	差し引き ②-①
97.5%	98.7%	1.2ポイント

経常収支比率とは、税など自治体が自由に使える収入に対し公債費や人件費、扶助費といった経常的に必要な費用の占める割合のことです。家計に例えると、給料などのような毎月決まって得られる収入に対して住居費や光熱水費、ローンの返済などのような毎月確実に支出しなければならない経費の割合のことです。

財政の健全化に向けて

このような厳しい財政状況に適切に対応していくため、歳入の確保に努めながら経常経費の更なる抑制や事業の重点化等の取り組みを行うとともに、公共施設等総合管理計画に基づく施設の総合的かつ計画的な管理、統一的な基準による財務書類の分析及び活用、日田市行政改革大綱に基づく実行プランの着実な推進など、財政マネジメントの取り組みを強化し安定的な財政運営に努めます。

市では将来の財政見通しを明らかにするため、令和3年度から令和7年度までの今後5か年の財政推計を作成し、ホームページに掲載しています。今号では、その中から主な内容についてお知らせします。

※普通会計とは一般会計と特別会計の一部(診療所事業・給水施設事業・住宅新築資金等貸付事業・情報センター事業)を一つの会計としてまとめたものです。 **財政課 財政係 ☎ 8634 (市役所4階)**

財政推計の目的等

- この推計は、令和2年度の決算見込額及び事業実施計画を基礎に、以下の目的で試算したものです。
- 健全な財政運営のために必要となる令和3年度から令和7年度までの5か年の予算編成の基礎的資料とするため
 - 中期的視点から、日田市総合計画における施策・事業を進める際の財源の目安とするため
 - 市の将来の財政状況を市民に公表し、本市の行財政運営に対する理解をお願いするため
- ※将来の予算額を決定したものではありません。

歳入

(単位: 億円)

区分	令和3年度 ①	令和7年度 ②	差し引き ②-①	概要
市税	72.3	76.8	4.5	個人市民税・法人市民税・固定資産税・軽自動車税などの合計です。新型コロナウイルス感染症の影響による景気の落ち込みや、企業業績の悪化によって、市税全体では令和3年度に大幅に減少し、以降は微増するものの減少水準が継続する見込みです。
地方交付税	113.0	112.4	△0.6	全ての自治体が一定水準のサービスを提供できるように、国から交付されるお金です。合併による普通交付税の優遇措置が令和元年度に終了し、今後は人口減少による影響などによって、推計期間を通じて減少する見込みです。
国県支出金	118.5	100.9	△17.6	市が行う事業に対して、国や県から補助金等として交付されるお金です。建設事業や災害による影響が大きく、事業費の増減によって各年度で変動がありますが、特に令和3年度は令和2年7月豪雨災害復旧事業に伴い大幅に増加する見込みです。
市債	60.8	65.0	4.2	建設事業や災害復旧事業などを行うときに国や金融機関から借入するお金です。令和2年7月豪雨災害復旧事業に伴う借入の増加も見込んでいます。
その他	63.1	62.1	△1.0	水郷ひた応援基金や森林環境譲与税基金等の、特定目的基金の繰入れなどを見込んでいます。
歳入総額	427.7	417.2	△10.5	※財政調整基金・減債基金・退職手当基金からの繰入額は含めていません。

歳出

(単位: 億円)

区分	令和3年度 ①	令和7年度 ②	差し引き ②-①	概要
人件費	57.6	57.8	0.2	特別職・一般職の給与や議員報酬です。令和3年度以降も、現在の職員数がほぼ同程度で推移する見込みとしています。 ※退職手当は、令和3年度が約4.2億円、令和7年度が約3.8億円。
扶助費	83.6	77.8	△5.8	高齢者・障がい者等に対して行う様々な支援や生活保護費、少子化対策等の経費で、障害福祉関連はサービス利用者増等から増加を見込みますが、児童関連費用は児童数の減少に伴い、給付費等は減少する見込みです。
公債費	43.8	41.4	△2.4	借入を行った市債の元利償還金の支払いに要する経費で、元金の償還終了によって推計期間を通じて減少する見込みです。
投資的経費	114.1	101.9	△12.2	建設事業や災害復旧等に要する経費です。災害の影響や施設の更新等によって各年度で変動しますが、特に令和3年度は令和2年7月豪雨災害復旧事業に伴い大幅に増加しています。
その他	137.1	142.4	5.3	公共施設の管理経費や補助金、積立金等の経費です。令和5年度以降は、災害対策基金の積立を見込んでいます。
歳出総額	436.3	421.4	△14.9	

※総額は、端数処理のため内訳と一致しない場合があります。